

熊本高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	国語I
科目基礎情報						
科目番号	LK2101			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	人間情報システム工学科			対象学年	1	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	精選 現代の国語 三省堂 岩崎昇一・三浦和尚ほか					
担当教員	有働 万里子					
到達目標						
1. 基礎的な日本語運用能力としての語彙力や漢字を読み書きする能力を身につけている。 2. 場面に適した文章表現ができる。 3. 論理的な文章について、その意図を把握したうえで、自身の意見を持ち、表現することができる。 4. 文学的な文章（小説・詩）について、登場人物の心情を読み取ることができる。また、自身の経験にひきつけて感想を述べることができる。 5. 日本の伝統的な言語文化について興味・関心を持ち、その価値に気づくことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を捉えることができる。客観的に読解し、まとめたうえで、自身の意見を持ち、正確に表現することができる。		論理的な文章（論説や評論）の構成や展開をとらえ、おおむねまとめることができる。		論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を把握することができない。	
評価項目2	文学的な文章（小説や詩）に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、理解することができる		文学的な文章（小説や詩）に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取ることができる。		文学的な文章（小説や詩）に描かれた人物やものの見方を十分に読み取ることができない。	
評価項目3	言葉に関心を持ち、疑問に感じた言葉を調べることができる。高校1学年程度の語彙力を有しており、運用することができる。		言葉に関心を持ち、疑問に感じた言葉を調べることができる。中学校卒業程度の語彙力を有しており、適切に運用することができる。		言葉に関心がなく、意味のわからない語句について調べることがない。中学校卒業程度の語彙を誤って運用することがある。	
評価項目4	日本の伝統的な言語文化について興味・関心を持ち、その価値に気づくことができる。		日本の伝統的な言語文化について、興味・関心を持つことができる。		日本の伝統的な言語文化について興味・関心を持ったり、その価値に気づくことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	「国語」の授業では、近現代の評論文や小説、古典文学など、様々な文章を主体的に読むことを通して、職場や地域、家庭等で、円滑なコミュニケーションを行う際に必要な技能や感覚、態度について取り扱う。学習を通して、豊かな感性と論理的な思考力を身につけ、読解力を獲得する。また、演習や課題を通して、自分自身の言葉で適確に表現する力を身につけるとともに、その基礎となる語彙力を豊かにしていく。					
授業の進め方・方法	講義では教科書と課題プリントを使用し、学生が主体となって意見を出し合う。授業の理解を深めるためにも、積極的に学習に取り組み、多くの意見を交わし、コミュニケーションスキルを会得する姿勢が求められる。採り上げる単元によって、グループ学習や口頭発表、レポートを課す。評価方法は、試験（中間・定期）60％、提出物や授業内課題40％とする。総合評価60％以上を合格とする。					
注意点	積極的に講義に参加すること。課題はひとつひとつ丁寧に意欲的に取り組むこと。合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	0 オリエンテーション 1 知らないものに出会う 「ぐうぜん、うたがう、読書のすすめ」	高専での国語学習について理解する 自分自身の読書体験について考え話することができる。		
		2週	2 相手のことを考える 「水の東西」①	語句の意味を的確に捉え、文章全体を把握することができる。 論の展開を理解しながら、筆者の主張を捉えることができる。 筆者の主張をふまえた上で、自分の意見を自分自身の言葉で、分かりやすく伝えることができる。		
		3週	2 相手のことを考える 「水の東西」②	語句の意味を的確に捉え、文章全体を把握することができる。 論の展開を理解しながら、筆者の主張を捉えることができる。 筆者の主張をふまえた上で、自分の意見を自分自身の言葉で、分かりやすく伝えることができる。		
		4週	2 相手のことを考える 「言語は色眼鏡である」	作品の構成・展開・趣旨を正しくとらえることができる。		
		5週	2 相手のことを考える 「日本のお祭り」 身近な日本文化を紹介する	作品の構成・展開・趣旨を正しくとらえることができる。 日本文化について触れ、知り、考えることができる。		
		6週	3 情報社会を生きる 「ネットが崩す公私の境」	作品の構成・展開・趣旨を正しくとらえることができる。		
		7週	3 情報社会を生きる 「選べる社会の難しさ」	作品の構成・展開・趣旨を正しくとらえることができる。		

後期	2ndQ	8週	3 情報社会を生きる 「情報社会について考える」	作品の構成・展開・趣旨を正しくとらえることができる。 読み比べを通して情報社会の課題や可能性について考えることができる。
		9週	中間試験	授業の総括をし、試験を行う。
		10週	答案返却 4 小説 「羅生門」①	語句を理解し、物語の展開を的確に捉えることができる。
		11週	4 小説 「羅生門」②	時代背景や登場人物を正確にとらえ、小説の世界を理解することができる
		12週	4 小説 「羅生門」③	全体の構成と場面展開を捉え、作品のテーマをおさえることができる。
		13週	4 小説「羅生門」④	人物・情景・心情を的確に捉え、自らの意見を表現できる。
		14週	4 小説「羅生門」⑤	課題に対してグループで意見を交わすことができる。
		15週	定期試験	授業の総括をし、試験を行う。
		16週	答案返却	試験結果を返却し、誤答への理解を深め、異議に応じる。
	3rdQ	1週	後期ガイダンス 5 ワールドカフェ①	問題を適切に捉え、問題解決に必要な会話を積極的に 行うことができる
		2週	5 ワールドカフェ②	問題を適切に捉え、問題解決に必要な会話を積極的に 行うことができる
		3週	5 ワールドカフェ③	問題を適切に捉え、問題解決に必要な会話を積極的に 行うことができる 会話の力・コミュニケーションスキルを理解することが できる
		4週	6 古典 「竹取物語」①	筆者およびテキストの歴史的背景を理解し、テキスト を読解することができる
		5週	6 古典 「竹取物語」②	人物の心情や展開、また基礎的な文法事項に注意して 、テキストを読解することができる
		6週	7 言葉を見つめる 「辞書は生きている」	作品の構成・展開・趣旨を正しくとらえることができる。 言葉への関心を深めることができる
		7週	7 言葉を見つめる 「アガルとノボル」	作品の構成・展開・趣旨を正しくとらえることができる。 言葉への関心を深めることができる
		8週	中間試験	授業の総括をし、試験を行う。
	4thQ	9週	答案返却 8 思考の枠組みを広げる 「見える文化/見えない文化」	作品の構成・展開・趣旨を正しくとらえることができる 相互理解のために必要なことは何か考え、自分の意見 を表明することができる
		10週	8 思考の枠組みを広げる 「見える文化/見えない文化」	作品の構成・展開・趣旨を正しくとらえることができる 相互理解のために必要なことは何か考え、自分の意見 を表明することができる
		11週	8 思考の枠組みを広げる 「コインは円形か」	作品の構成・展開・趣旨を正しくとらえることができる 相互理解のために必要なことは何か考え、自分の意見 を表明することができる
		12週	9 ディベート ディベートとは	テーマに沿って、自分の意見を深めるために必要な情 報を見極め、集めることができる 集めた情報をもとに自分の意見をまとめ、口頭で説明 することができる
		13週	9 ディベート ディベートをやってみる①	テーマに沿って、自分の意見を深めるために必要な情 報を見極め、集めることができる 集めた情報をもとに自分の意見をまとめ、口頭で説明 することができる 相手の意見を受けて、自分の意見をまとめ反論するこ とができる
		14週	9 ディベート ディベートをやってみる②	テーマに沿って、自分の意見を深めるために必要な情 報を見極め、集めることができる 集めた情報をもとに自分の意見をまとめ、口頭で説明 することができる 相手の意見を受けて、自分の意見をまとめ反論するこ とができる
		15週	定期試験	授業の総括をし、試験を行う。
		16週	答案返却	試験結果を返却し、誤答への理解を深め、異議に応じ る。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会 科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約で きる。	2	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の 妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	2	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に 即して読み取り、自分の意見を述べるすることができる。	2	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	2	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	2	
				社会生活で使われている故事成語・慣用語の意味や内容を説明で きる。	2	

分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	2	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	2	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	2	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	2	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	2	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	2	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	2	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	2	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	2	
				日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	2	前1
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	2	前1
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	2	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	2	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	2	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	2	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	2	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	2	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	2	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	2	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	2	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	2	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	2	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	2	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	2	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	2	
				複数の情報を整理・構造化できる。	2	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	2	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	2	
グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	2					
どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	2					
適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	2					
事実をもとに論理や考察を展開できる。	2					
結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	2					
周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	2					
自らの考えで責任を持つものごとに取り組むことができる。	2					
目標の実現に向けて計画ができる。	2					
目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	2					
日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	2					
社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	2					
チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	2					
チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	2					
当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	2					
チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	2					
リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	2					

			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	2	
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	2	
			法令やルールを遵守した行動をとれる。	2	
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	2	
			技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	2	
			自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	2	
			その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	2	
			キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	2	
			これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	2	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	2	

評価割合				
	試験	平常点	合計	
総合評価割合	60	40	100	
基礎的能力	60	40	100	
専門的能力	0	0	0	